

平成 28 年度第 5 回清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体 会議録
(議事要旨)

1 開催日時 平成 29 年 1 月 26 日 (木) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分

2 場 所 コミュニティプラザひまわり 会議室 1

3 出席者

(1) 委員

地縁団体 阿久津 州美男

内野 光裕

田中 三和子

近藤 礼子

地域福祉団体 星野 孝彦

小野 秀

高田 徳次郎

柳原 義介

福嶋 康人

名古屋 英幸

菅原 のぞみ

内田 豊

羽田 ゆかり

生活支援サービス事業関係者 村田 秀子

生活支援コーディネーター 鍵和田 卓也

(2) 職員

健康福祉部長 八巻 浩孝

健康福祉部高齢福祉担当部長 小山 利臣

市民生活部産業振興課長 木村 広昇

健康福祉部地域包括ケア推進課長 関口 美智子

健康福祉部健康推進課長 田村 晶子

健康福祉部地域包括ケア推進課福祉総務係係長

田中 秀明

健康福祉部地域包括ケア推進課 吉村 晶子

上垣 真人

4 次第

(1) 開会

(2) 挨拶 小山高齢福祉担当部長より

(3) 配布資料の確認

当日資料 1 協議体ふりかえり

当日資料 2 支え合うきよせ委員会の役割とは

当日資料 3 支え合うきよせ委員会 生活支援コーディネーター業務報告 (案)

(4) 議題

ア 平成 29 年度の協議体の進め方（当日資料 1～3）

事務局から、協議体の立ち上げから前回の会議までの検討内容について当日資料 1 を用いて説明があった。

生活支援コーディネーターから、当日資料 2、3 を用いて、支え合う清瀬委員会の現状と、今後の方向性（案）について説明があり、今後、検討部会をいくつか立ち上げて進める事の提案があった。

委員からの主な質疑は以下の通り。

①協議体の設置目的について

- ・ 当協議体の目的は総合事業を円滑に進めるための会ではないか。総合事業の内容について検討を進めたほうが良いのではないか。
- ⇒当協議体は総合事業の事業内容を検討する会議ではなく、多様な主体による地域の支え合いづくりの課題を話し合う会議である。但し、地域の支え合いづくりの過程で、総合事業の担い手が生まれる可能性がある。

②部会の構成と進め方について

- ・ 3つの部会「企画部会（サロン立上等）」「サロン機能の開発」「地域ニーズの把握」としてはどうか。
 - ・ 有志のような形ではなく、協議体の部会として位置づけたほうが良い。
 - ・ 部会の中で、他市の見学、市内の成功事例、失敗事例などを分析できないか。
 - ・ 協議体の役割をいくつか分割し、部会を設置してはどうか。事務局より次回 3 月に委員の配置も含めて提案してもらってはどうか。
 - ・ それぞれの部会の目的を揃えて進めることが必要。
- ⇒次年度は部会を構成して、部会で検討を進める。
- 次回協議体に、事務局と生活支援コーディネーターから部会の案（役割、目的、メンバー構成等）を提出し、検討する。

②その他

- ・ 一部の老人会を強化し、「プラチナクラブ」のような名前で、支え合いの仕組みづくりなどを担えないか。
- ⇒老人会は市内 1215 名が加入。いこいの家は老人会に限定されないので、是非活用いただきたい。
- ・ 包括支援センターが地域で活動する中で、セブンイレブンが 1 つ無くなっただけでも地域の高齢者が困っている状況がある。そのような課題を拾い上げていくと、結果的に総合事業のニーズにも繋がるのではないか。
 - ・ 協議体で、総合事業の報告も行うことで、住民の力を借りて支え合う仕組みづくりについて、委員がより理解することができるのではないか。
- ⇒他市や市内で既に進んでいる支え合いの仕組みづくりについて、会議でも情報共有、報告を受けながら進める。

(5) 報告

ア 介護・サロンマップの発行について

事務局より、清瀬市・医療介護連携推進協議会で介護・サロンマップを3月末に発行予定であると報告があった。

(6) その他

ア 生活支援コーディネーター第二層について

小山高齢福祉担当部長より、コーディネーターの配置については、平成29年度市内3地区に配置できるよう検討していると報告があった。

(7) 次回開催日 地域包括ケア推進課長より

次回開催は3月30日(木) 13時半～ 健康センター研修室を予定とする。

(8) 閉会挨拶 八巻健康福祉部長より